

Title	大阪大学における図書館スタッフによる学習支援の試み、ならびにグローバル・commonsの紹介：1. 図書館スタッフによる学習支援 「プレゼン入門：話す基本技術」
Author(s)	久保山, 健
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/25951
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

1

大阪大学における図書館スタッフによる
学習支援の試み、
ならびにグローバル・ commons の紹介

〜1. 図書館スタッフによる学習支援
「プレゼン入門：話す基本技術」

久保山 健 (KUBOYAMA Takeshi)
大阪大学附属図書館 利用支援課 (サービス企画主担当)
<January 28, 2013>
平成24年度第1回情報リテラシー教育・講習研究会
会場：京都大学附属図書館

投影版

(1) はじめに

■ 今日の内容

(1) はじめに
(2) これまでの講習会の概観 (TA講習会、レポートの書き方講座、論文の書き方/文献の読み方 プチゼミ)
(3) 紹介
(4) 課題
(5) まとめ
↓
2つ目の内容、全体を通しての問いかけ

(1) はじめに


■ 経歴

- 2005.6～の約6年間は、情報推進部 情報基盤課
- 2011.4～ 現部署
- 学習支援企画、広報等を担当

(1) はじめに

■ 講師/職場のバックグラウンド

- 図書館スタッフ：
授業コマでの「図書館活用法入門」
論文の探し方講習など
- Teaching Assistant：学習相談、講習など
- 教員と図書館スタッフ：
レポート講座
論文の書き方・読み方
話す基本技術



(2) これまでの講習会の概観

○ Teaching Assistant (TA)

- 総合図書館 大学院生 6名
- 理工学図書館 大学院生 7名
- 外国学図書館 大学院生 6名 (2012.10.1～)

- 学習相談、レポート作成のアドバイス
パソコンの操作法の説明、おすすめ本リストの作成
パスファインダー (テーマ別調べ方ガイド) の作成、各種ミニ講習会の実施

(2) これまでの講習会の概観

○ レポートの書き方講座 (全3回)

- 2010.6～ 1グループ、のべ47名
- 1回生想定。レポートの書き方の基礎。
- 内容：堀准教授(全学教育推進機構)

- 2012年度 パッケージ化の試み
前期に3グループ、後期に1グループ
図書館スタッフとTAも講師を担当
参加のべ117名

(2) これまでの講習会の概観

○論文プチゼミ (全4回)

- ・ 2010.12～ 1グループ、のべ18名
- ・ 3-4回生想定。ライティングとリーディング
- ・ 内容：堀准教授(全学教育推進機構)
赤井専門職員(附属図書館)
- ・ 2011年度 パッケージ化の試み
補講9コマ実施
参加のべ45名
(2012年度はのべ28名)

7

(3) 紹介

(1) 実施目的、背景

- ・ 本学の学習支援企画の充実
- ・ 「プレゼン」の学習機会が少ないという推測
- ・ 本学学生が人前で分かりやすく話すことに貢献
- ・ 大学図書館の教育機能のアピール(*)
- ・ 大学図書館の教育機能を考え、本学の教育活動になんらかの関わりを持つ機会が増えることも期待

(*)赤井規晃. 大学図書館とライティング教育支援. カレントアウェアネス, 310, 2011.12

8

(3) 紹介

(1) 実施目的、背景

- ・ 本学の教育目標の一つに、グローバル社会で活躍できる「国際性」を備えた人材育成。” Transcultural communicability”
- ・ 個別にニーズ調査

9

(3) 紹介

(2) 時期、人数、場所

○1回目

- ・ 2012年2月半ば、授業休業期の初日～3月はじめにかけて実施した。全2コマ。
- ・ 4グループ実施（当初は2グループの予定）
- ・ 参加：実人数31名、のべ58名。
1回生から修士2回生と幅広く。

10

(3) 紹介

(2) 時期、人数、場所

- 2回目：2012年9月中旬の授業休業中
- ・ 2グループ開催し、希望者対象に発展編を1コマ。
- ・ 参加：実人数15名、のべ33名。
1回生から博士2回生と幅広い層

11

(3) 紹介

(2) 時期、人数、場所

- 3回目：2013年2月中旬～下旬
- ・ 3グループ+希望者対象に発展編1コマ
吹田地区でも初開催
→ 1グループ追加開催
- ・ 「レポートの書き方講座」「論文プチゼミ」受講者の5名が申込
- ・ 4グループとも定員+1-2名の受付
(1月25日時点。募集開始後3週間弱)
- ・ 追加開催? 3月から定期開催の試行?

12

(3) 紹介

(2) 時期、人数、場所

- ・休業期の開催でも一定の参加者数
1回目に行ったアンケートでは、
「休業期の方が参加しやすい」：半数以上
「どちらとも言えない」：約4分の1
- ・場所：総合図書館ラーニング・コモンズ
2012.9の発展編は、図書館ホール
2013.2は、グローバル・コモンズ

13

(3) 紹介

(3) 内容

- ・到達目標
 - (a)話す時のトピックセンテンス、パラグラフについて知る
 - (b)話す時に必要な要点のヒントを身に付ける
- ・1コマ目：トピックセンテンスやパラグラフ、スピーチの基本構成の解説。実習。
- ・2コマ目：導入と結びの技術、つなぎの言葉、そして声やアイコンタクト。実習。
- ・発展編：ブレインストーミング、スピーチ練習、ビデオ、司会を行う際の留意点の解説 14

(3) 紹介

(3) 内容

- ・全員の前でスピーチする前に、ペアで練習。お互いにフィードバック。
- ・ペア練習の目的：聞くことで話すことの留意点を理解。意見交換による場の活発さ。



15

(3) 紹介

(4) 内容の元

- ・アジア図書館（大阪市東淀川区）で開催された松中みどり氏の英語クラス
- ・「論文プチゼミ」で堀准教授が作成したパラグラフの説明用資料
- ・津田久資、下川美奈、ロジカル面接術. 2013年基本編. ワック. 2011 から第2章 (p.87-96)
- ・平井通宏. エンジニアのための英語プレゼンテーション超克服テキスト. オーム社, 2007 から第5章 (p.74-81)

16

(3) 紹介

(5) 受講生の反応

- ・アンケートでの有用度の5段階評価（非常に有益(5)～普通(3)～役に立たない(1)）
1回目は平均4.50 2回目は平均4.56
- ・学習機会の少なさ。実習の長さなど。

17

(3) 紹介

(6) 大学教育の中の「プレゼン入門」

- ・「大学図書館の教育機能のアピール」「本学の教育活動になんらかの関わりを持つ」
一定の効果があつたと信じたい
（教員のサポート/聴講。ある教員がFacebookで紹介。あるゼミへの1コマ出張?）
- ・但し、まだきっかけの段階。これからも実践を重ねる必要がある。

18

(4) 課題

(1) 内容と回数の充実

- ・内容は常に見直し
- ・受講機会の増加（授業期に定期開催?）

(2) 位置付け

- ・回数を一定程度で続けるのか、新しい機能として拡充するのか
- ・忘れてはならないのは：これにより本学の教育活動と図書館スタッフの活動との距離が近くなり、意識や課題の共有に。
従来とは異なるつながりの契機に。

19

(4) 課題

(3) 効果分析

- ・習熟度、事後の実践について未評価
- ・事後アンケート?

(4) 継続性の確保

- ・講師は一人のみ。日本語でのスピーキングはあまり定型化されていない。属人性の高さ。

(5) 授業との関わり

- ・大きいとは言えない
- ・あるゼミへの1コマ出張?は、エレベータでの偶然の会話から。

20

(5) まとめ

■ 一つ目の内容

- (1) はじめに
- (2) これまでの講習会の概観（TA講習会、レポートの書き方講座、論文の書き方/文献の読み方 プチゼミ）
- (3) 紹介
- (4) 課題
- (5) まとめ

21